

「第27回富川国際ファンタスティック映画祭」開幕… 52ヶ国262本を上映



▲出展：富川国際ファンタスティック映画祭

「第27回富川国際ファンタスティック映画祭」（以下BIFAN）が幕を上げた。

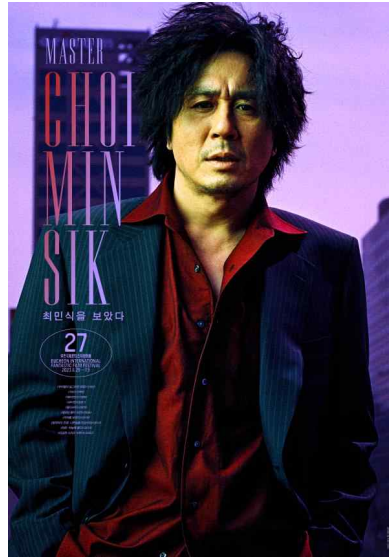
6月29日19時、富川市庁の屋外ステージでは、俳優パク・ハソン、ソ・ヒョヌの進行により、BIFANの開幕式が行われる。

今年のBIFANのスローガンは、「ヘンでも大丈夫」である。非主流の才能を応援するジャンル映画祭のアイデンティティを引き継ぐという覚悟だ。今年のBIFANでは、51ヶ国から出品された262本の映画に出会える。このうち、長編は121本、短編は110本、ビヨンドリアリティ部門で上映されるXR作品は31本となっている。

シン・チョル執行委員長は、「私たちは、どのように映画に漫画を、映画にウェブトゥーンを、映画にシリーズを合わせ合わせるかに注目している」として、「世界の映画界の大きな変化の中で韓国映画の現状を診断し、未来を見据える映画祭になってほしい」と話した。

6月29日に開かれる開幕式には、司会役のパク・ハソン、ソ・ヒョヌをはじめ、アン・ソンギ、チェ・ミンシク、パク・ジュンファン、イエ・ジウォン、チャン・ヨンナム、チョン・ジュノ、チョ・ソンハ、カ・ジンドンなど、約150人のスターが参加する。雨が降る悪天候の中でもスターたちを会えるため多くの映画ファンが詰めかけることが期待されている。

開幕作はアリ・アスター監督の『ボー・イズ・アフレイド』であり、「コリアンファンタスティック：映画+Kポップ」セクションでは、NewJeansのプロデューサーである。 がナレーターとして登場するドキュメンタリー映画の『ポンを探して』とBTSのメンバーが主人公の『j-hope IN THE BOX』と『SUGA: Road to D-DAY』などが上映される。



出展：富川国際ファンタスティック映画祭

俳優特別展の主人公としては、俳優のチェ・ミンシクが選ばれた。俳優特別展の『チェ・ミンシクを見た』では、チェ・ミンシクが直接選んだ代表作と初期短編など、10本を観覧できる。チェ・ミンシクは、メガトークなどのイベントに登場し、観客と語り合う。

富川市昇格50周年を記念する「富川市50周年記念展」も設けられる。『燃えよドラゴン』など、1973年に制作された映画を今回のBIFAN期間中に観覧できる。映画祭は、7月9日まで富川市庁、韓国漫画博物館、CGV 道風、メガボックス富川スターフィールドシティなどで開かれる。また、Wavveよりオンラインでも視聴できる。